

高知工科大学次期学長候補者の決定について

本学現学長、磯部雅彦が2023年3月末に任期満了を迎えるに伴い、学長選考会議（議長：青木章泰）において次期学長候補者の選考を行った結果、現副学長である蝶野成臣が、次期学長候補者として選考されましたのでお知らせします。

なお、公表にあたっては、学長選考会議による理事長並びに経営審議会及び教育研究審議会への報告を経て、理事長による高知県知事への報告が完了したことから、本日の発表となりました。

【次期学長候補者】

氏名：蝶野 成臣（ちょうの しげおみ）
生年月日：1956年1月15日生（66歳）
専門分野：流体工学
出身地：愛媛県

学 歴：

1978年3月 大阪大学工学部産業機械工学科卒業
1980年3月 大阪大学大学院工学研究科
産業機械工学専攻修士課程修了
1984年11月 工学博士（大阪大学）

職 歴：

1982年4月 福井大学 工学部 助手
1988年4月 福井大学 工学部 講師
1989年12月 米国カリフォルニア大学バークレー校 客員研究員（10か月）
1990年1月 福井大学工学部 助教授
1996年3月 米国カリフォルニア大学バークレー校 客員研究員（6か月）
1997年4月 高知工科大学 工学部 知能機械システム工学科 教授
2005年4月 高知工科大学 工学部 知能機械システム工学科 学科長
2009年4月 高知工科大学 システム工学群（改組） 学群長
2013年4月 高知工科大学 副学長・学生本部長
2015年4月 高知工科大学 副学長・学生本部長・教育本部長
2017年4月 高知工科大学 システム工学群 学群長
2019年4月 高知工科大学 学長特別補佐（教育担当）
2021年12月 高知工科大学 副学長（現在に至る）



【蝶野成臣コメント】

システムの思考を核とした工学を追究すべく創設された高知工科大学は、開学以来、その考え方を進化させ続け、経済・マネジメント分野にも展開してきました。今後は、データ&イノベーション学群の新設を機に、「システムの思考×データ」に基づいて専門分野の知を創成し、さらには、それらを基軸としたイノベーションをもたらせる実学も探求します。新学群と既存の4学群とが密に連携し、質の高い研究を通じた、人材の育成、社会への貢献を進めていきます。

高知発の世界一流の大学を目指し、歴代学長のもとで創り発展させてきた理念、柔軟性、機動性、効果性を大切にしながら、知を創出し、発信し、普及する活動を通じ、多くの人が集まる大学にしたいと思っています。

次期学長の任期及び任命：

2023年4月1日～2027年3月31日（4年間）

学長の任命は、学長選考会議の選考に基づき理事長が行う。（地方独立行政法人法第71条第5項及び高知県公立大学法人定款第11条第3項 参考）

選考理由：

1997年の開学時に工学部知能機械システム工学科の教授として着任。学科長及び学群長を8年間歴任し、2013年には副学長。以後、学長特別補佐（教育担当）等要職を経て、2021年12月には再び副学長。この間、各種の教育改革及び教員評価システムの構築を先導し、本学独自の教育プログラムや人事制度を推進した。その取組姿勢は公正であり高潔、また、日本機械学会等フェローの称号を授与されるなど、十分な教育・研究業績を活かし多方面で活躍している。

今後、本学の強みや特色を活かし、理念などを継承し、高知工科大学の更なる進化を目指すうえで、学長として最も適任であると委員全員の意見が一致し、学長候補者として選考することとなった。【学長選考会議】

選考経過：

学長選考会議 第1回会議（2022年6月6日）にて、次期学長の任期（4年間）及び学長選考方法（委員の推薦に基づく選考）を決定し、第2回会議（2022年7月27日）にて蝶野成臣現副学長が次期学長候補者として委員より推薦された。

第3回会議（2022年8月24日）にて、蝶野成臣副学長によるプレゼンテーションと質疑応答を実施した結果、委員全員一致で蝶野成臣現副学長を次期学長候補者として決定した。

学長選考会議について

■学長選考会議とは

地方独立行政法人法第71条第3項及び高知県公立大学法人定款第11条第2項に基づき設置される選考機関

■学長選考会議 委員

経営審議会を構成する者の中から選出する3名と、教育研究審議会を構成する者の中から選出する3名の計6名により構成

	氏名	備考
経営審議会委員	青木 章泰	高知商工会議所 最高顧問
	佐竹 慶生	株式会社高知放送 代表取締役会長
	十河 清	高知県立大学 後援会長
教育研究審議会委員	八田 章光	高知工科大学学長特別補佐／教授
	岩田 誠	高知工科大学研究本部長／教授
	小廣 和哉	高知工科大学環境理工学群長／教授